

4年生への応援メッセージ

4年生担任 梶 勇三郎
担任補佐 孫田 千恵

国家試験まで、あと3か月に迫ってきました。皆さんには、これまでの4年間で十分な知識が蓄えられており、国家試験に合格する能力は確実に備わっています。ただ、その能力を試験当日に100%引き出すためには、最後まであきらめずに毎日勉強することが大切です。また、新型コロナウイルスの影響で、友人と一緒に勉強する機会も減って1人で勉強する時間も多いたと思いますが、けっして孤立することなく、直接会えない場合もICTを使い友人同士で支えあって情報交換を行って下さい。友人同士で教えあうことで効率的に理解を深めることもできます。

試験前は心配なことも出てきて、話や愚痴を聞いてほしいこともあるでしょう、そんなときは気軽に私たちのところに来ていただけたらと思います。

皆さんなら、やってやれないことはありません、大丈夫です。自信を持って頑張ってください。



担任補佐 孫田 千恵先生 担任 梶 勇三郎先生

新任教員の紹介

基礎看護学 講師 前野 里子

令和2年6月に着任しました。本学を編入生として卒業後、看護専門学校、看護大学で勤務し、主に在宅看護や成人慢性期看護を担当してきました。久しぶりの基礎看護の学内演習ではボディメカニクスの重要性を痛感しています。頭と体を効果的に活用しながら、看護を追究する楽しさを共有しましょう!

宜しくお願い致します。



第20回 日本感染看護学会学術集会を開催

会長 三橋 睦子

2020年8月22日に、第20回日本感染看護学会学術集会(会長:医学部看護学科教授 三橋睦子)を久留米大学医学部看護学科で開催致しました。

図らずも、100年に1度といわれる新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、国際感染症への脅威が現実となりました。このため、初めてのWeb開催と致しました。

リモートながら、活発な双方向性のディスカッションを交わし、215名の多数の方に御参加頂きました。ご支援ご協力賜りました皆様へ、衷心より御礼申し上げます。

開催にあたり、久留米大学医学部看護学科同窓会より多大なご支援を賜り心より感謝申し上げます。



Webオープンキャンパス開催報告

広報活動委員会 委員長 原 頼子

2020年度のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、従来の来場型ではなく、Zoomを利用した双方向型Webオープンキャンパスを8月10日(月・祝)に実施し、その動画を配信しました。



イベントは、オープニングの三橋学科長による看護学科紹介、在校生4人による学生生活紹介、次は希望により4つのブレイクアウトセッション「フライトナースのお仕事」「助産師のお仕事」「クリニカルスキルトレーニングセンター見学ツアー」、「模擬講義 体の仕組みと看護」に分かれました。最後は高校生と在校生一同でクロージングとなりました。初めての試みでしたが、参加者の皆さんには楽しんでいただけたようで担当者全員ホッとしました。



編集後記

皆さん、今回の学科通信ははなみずきは、いかがだったでしょうか。今年は、新型コロナウイルスの影響で、新入生歓迎会など様々な行事がなくなり、授業もオンライン授業で大変でしたが、無事、前期を終えることができました。今回ののはなみずきは、それぞれの学年の授業や実習のことをご紹介できたと思います。はなみずき委員は、この学科通信を通して、学生が充実した大学生活を送っていることを発信していけるよう頑張りますので、皆さんのご協力をよろしく申し上げます。

2020年度 学科通信委員

- | | | | | | | | |
|-----|-------------------------|-----|-------------------------|-----|-------------------------|-----|---------------------------|
| 1年生 | 及川 千穂
田中 涼佳
松藤 涼香 | 2年生 | 土肥 綾花
高山 水希
西嶋 真由 | 3年生 | 清水 吾衣
高田 智佳
町川 美羽 | 4年生 | 田中 麻優子
田島 澄麗
西川 ことみ |
|-----|-------------------------|-----|-------------------------|-----|-------------------------|-----|---------------------------|



看護学科通信

はなみずき 第56号

Kurume University School of Nursing
777-1, Higashi-kushihara, Kurume City 830-0003 Japan
Tel.0942-31-7714 Fax.0942-31-7715



インド・ミテライラ地方の民族画「スーリヤムッキーの木」

後援会会長挨拶

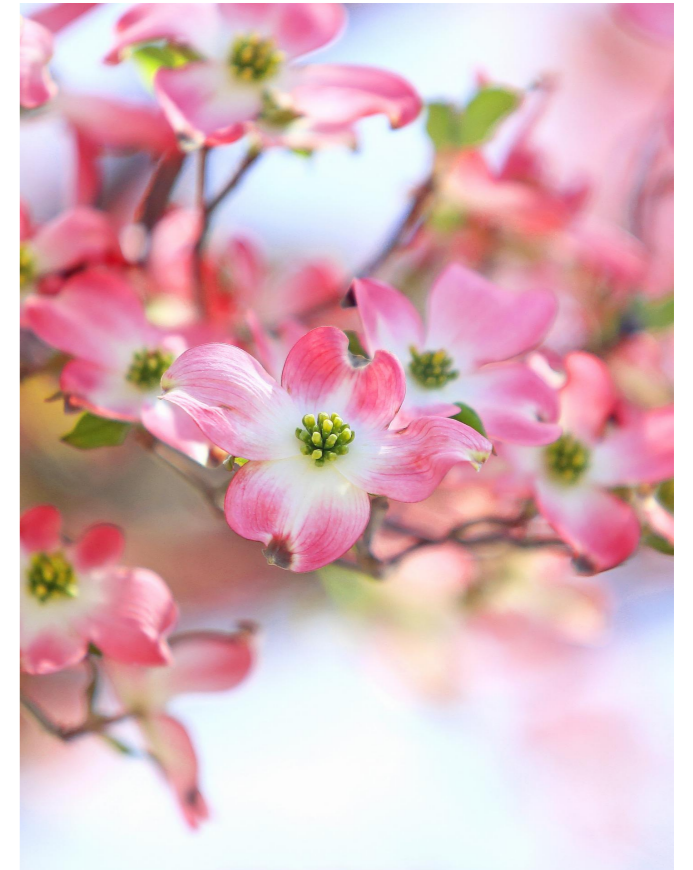
後援会会長 柳場 澄子

新入生、在校生の皆さん、新型コロナウイルス感染症が全世界に拡大する中で、入学や新学期が始まり、半年余りが過ぎました。未だ収束の見通しがつかない感染症により、入学式の中止、慣れないオンライン授業、部活動・大人数での会食の自粛など、学生生活においても、かつてない困難な状況が続いております。皆さんの先輩にあたる看護師の方々は、コロナ禍の中で、自らの感染の不安や恐怖と、医療従事者として患者に対する使命感の狭間で、日々懸命に仕事に従事しておられます。患者に対するこれらのひたむきな姿勢や仕事に対する誇りや責任感を、今こそ授業や実習において、しっかりと見て、感じて、学んで下さい。今だからこそ、自分自身と向き合い、今自分が何をすべきか、見つけ直すいい時期だと思います。これからも気を抜かずソーシャルディスタンスを保ち、3密を避け、感染予防に充分に気を付けて下さい。一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

後援会総会報告 後援会予算

令和2年度の看護学科後援会総会が6月20日(土)に開催され、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため内容が一部変更されました。総会での承認事項は次の通りです。

1. 令和2年度の後援会役員は、2年生以上の役員はそのまま持ち上がり、1年生からは新たに3名の役員が選出され、計12名が承認されました。また、会長に柳場澄子様(3年)、副会長に森下ゆき様(3年)・近藤雅子様(2年)、監事に永田博明様(3年)・有村幸子様(2年)が承認されました。



2020年度 1年生



1年生

看護学科に入学して

M.M

今年は入学式も執り行えず、みんな思うように過ごすことができていません。しかし、このような状況だからこそ、将来、医療従事者となる立場として考えることがたくさんありました。看護学科に入学して、看護師になるための専門的なことを学べるのがとても嬉しいです。そして、なによりも楽しみにしていたことは、新しい友だちができることです。今ではたくさんの友達と話すようになり、毎日みんなに会うことがとても楽しいです!

これからもみんなと楽しく過ごしながら、勉強も、何事にも一生懸命に取り組んでいきたいです。



生活援助技術Iで学んだこと

I.M

生活援助技術Iでは、患者さんにとって快適な看護援助を行うと同時に、看護者が怪我のない安全な姿勢も考慮した援助をするにはどのようにしたらいいか、様々な視点から考える必要がありました。特に、看護援助を行う際に無駄な動きを避けるため足の幅や向きを考え、重心移動することは難しく感じました。また、今学期、最も練習したベッドメイキングではマットレスを下から支えることや手首を使ってシーツを張る、これらの小さな動きひとつひとつがいかにか綺麗で素早く仕上げられるかを学びました。まだ不慣れな動きが多く身体全体をうまく活用できていませんが、後期には実習が控えているので着実に身につけていきたいです。



大学生になって

M.M

四月に看護学科へ入学し、様々なことを学び始め、看護師への大きな一歩を踏み出したと感じています。生活援助技術の授業は私にとって難しいことばかりですが、この科目で学ぶことは看護師となるうえで特に重要なものだと思うので、練習を重ねることで技術を自分のものにしていきたいです。私は現在、寮生活していますが、家族と離れることで初めてその有難さを感じています。日々家族、友人、大学の先生方に支えられているので、感謝の気持ちを忘れずに四年間頑張っていきたいです。



災害看護学の講義を通して

K.R

私たちは災害看護学の演習で三角巾法による打撲・骨折部位の固定方法、圧迫止血法、さらに毛布などの身近にあるものを使用した応急担架の作成を体験しました。作り方はとてもシンプルで素早く用意できるため、早急な対応が求められる災害の現場ではとても役立つと感じました。最近、大雨などの自然災害が多発しているため、この演習で習ったことを活かせる機会が多くなってきています。もし、災害に遭遇した場合にどのように対応し、行動をすればよいのかということを中心に考え、災害看護学で習ったことを活かしていきたいです。



解剖学実習に参加して

M.R



解剖学実習に参加させて頂いている身として、この貴重な学びの機会を与えて下さった方々へ感謝申し上げます。本年度は当初の予定通りにはいかず、自粛期間中は不安になることもありましたが、対面授業が再開すると、命と向き合う緊張感を抱きつつ、医学科や看護学科の先生方、医学科と看護学科の学生らと共に充実した解剖学実習を行うことができ、実習への不安は感じませんでした。貴重な機会を寸分も無駄にすまいと集中しても時間が足りないと感じるほど、多くのことを学ばせていただきました。後期も万全な準備をした上で、ご献体への感謝の気持ちを忘れず参加させて頂こうと思います。



2年生

絆フェスタWeb開催

M.N

絆フェスタとは久留米絆をテーマにした地域連携活動であり、久留米大学法学部、医学部看護学科、久留米工業大学の3大学の連携により、久留米絆の魅力について発信しています。今年は新型コロナウイルスの影響で、Web開催となりました。私は、久留米絆ファッションショーのモデルとして参加させていただきました。毎週、本格的なウォーキングレッスンを行い、久留米絆について学び、衣装の見せ方や衣装に合わせた歩き方など、創意工夫してファッションショーを上げてきました。不安なこともありましたが、実行委員の方々や先輩たちと作り上げることができて、とても良い経験になりました。



3年生

オンデマンド講義を通して

N.N

オンデマンドでの講義形態は初めてでしたが、受講していくうちに色々と見えてくるものがありました。まずは、自分のペースに合わせて受けることができるということです。この部分に分らないなと思った時、そこで一旦立ち止まり、自分が理解できるまで突き詰めることができます。その反面、自由度が高まるため、講義を真面目に受けられないなどの欠点があります。今回の経験をを通して、クラス全員で授業を受けられる喜び、先生方が対面を通して指導して下さる、ありがたさを実感しました。先生方への感謝とクラスメイト同士で学ぶことができる喜びを感じつつ、今後の授業を受けていきたいと思えます。



特別講義～石巻での地域災害医療コーディネーション経験とその後の取り組み～を聴いて

I.T

東北大学病院の石井正先生の特別講義を聴いて大きく2つのことが印象的でした。まず、1つ目は「有志ではなくシステムを構築すること」や「実践して修正していく」と仰っていて、将来的にマニュアル作成に限らず様々な場面で応用ができると思いました。2つ目は、現場での底力です。避難所や病院は混沌としておりマニュアル通りに行かないこともあること、「一人一人の発想が現状を打破することもある。」ということを仰っていました。改めて日頃の学習と緊急時のマニュアルの重要性を感じました。東日本大震災という震災における医療体制管理の「理想論」ではない「経験知」を知ることができました。



特別講義 講師 石井 正先生

小児看護技術演習を通して

H.M

小児療養生活支援論の演習で赤ちゃん人形やシミュレーターを使って身体計測、オムツ交換、バイタルサイン測定を行いました。シミュレーターで脈拍や呼吸数が再現され実践的に行うことができました。特に、身長を測る時に、足を伸展させ、足底を垂直にして板に合わせるのが難しかったです。しかし、臨床の場では、動いたり、泣いたりして、スムーズにいかないと思うので、焦らず、素早く測定できるようにしようと思います。また、首の座っていない赤ちゃんの抱っこの仕方や声のかけ方も学ぶことができ、充実した演習でした。今後の実習に生かしていこうと思います。



総合実習で学んだこと

N.K

日々、新型コロナウイルスの感染者が増加し、4、5月に予定されていた講義もオンデマンド講義となりました。他大学の看護学実習は学内演習に変わる中、総合実習が行われるか不安でしたが、久留米大学病院や久留米大学医療センターが私達の実習を受け入れて頂き、例年と同じように総合実習を行うことができました。3年生の専門実習とは異なり、総合実習では看護師や看護管理者である看護師長や主任看護師の1日の動きや役割を学ぶことができました。複数人の患者さんを受け持つあたり疾患や検査を理解し、優先順位を決め看護ケアを行う難しさや、働きやすい環境作りをされている看護管理者の役割など今までの実習では見えてこなかった看護の難しさややりがいを感じることができました。来年から働くにあたり、この経験を活かしていきたいと思えます。



地域生活支援実習を終えて

T.R

これまでの看護学実習では患者さんを対象に個別性のある、より質の高い看護ケアを提供するための実習でしたが、地域生活支援実習では疾患の有無に関わらず、地域で生活する全ての住民が対象となるため、看護師と保健師の対象者を捉える視点が異なることを実際に学ぶことができました。また、このようなコロナ渦の中、保健所や市役所で実習ができたことで教科書では学べない保健師の役割や専門性、対象者とのコミュニケーションにおける注意点や工夫などを理解することができました。この実習での経験や学びを、卒業後、看護職者としてさまざまな活動に役立てていきたいと思えます。

4年生

例年とは違う就職活動

T.M

新型コロナウイルス感染症拡大により、参加予定だった病院説明会やインターンシップ、就職対策講座が中止となり、不安な中での就職活動となりました。6月から大学の対面講義が再開し、定期試験、実習、就職試験と慌ただしいスケジュールとなりました。その中で、先生方に履歴書を添削していただき、時間を見つけて一次試験の勉強をしました。友人は、Web面接やオンライン試験などの慣れない選考形式での就職試験を経験していました。今年は、新型コロナウイルスの影響で採用人数の減少や関東圏の就職希望者が減り、福岡県内の競争倍率が高く、内定をいただけるかとても不安でしたが、無事に第1志望の病院に内定を頂くことができ、本当に嬉しく思っています。これからは、卒業論文作成と国家試験の勉強に励みます。

